

「時代を創る覚悟はあるか」



Global Mobility Service 代表取締役社長 **中島徳至**
なかしま とくし

2018年、イチヨウが色付き、神谷町は一層秋の深まりを感じさせていた。秋空に映える黄金の葉がひらひらと舞う先に目を遣ると、道の向こうから歩いてくるのは、ENNE OSホールディングスの故渡文明名誉顧問だった。

刹那的に蘇る昔の思い出が懐かしい。私が起業家として一社目を経営していた際、株主だった渡さんは、いつも厳しくも優しいご助言で気付きを与えて下さり、しばしば「君のような起業家が社会を変えていくんだ」と励ましてくれた。渡さんをはじめ多くの方々からの期待を背に、私は電気自動車の開発に日夜精を出していた。

しかしある日、突如として事業譲渡せざるを得ない事態に陥った。雨が降り出しそうな曇天の中、渡さんのもとにお詫びに伺ったときの役員フロアの情景は、今でもくすんで脳裏に映し出される。

それから7年。神谷町を歩く恩師の姿を目にして、気が付いたときには私は「渡さん！」とお声掛けしていた。こうして久々に渡さんの元へ訪問する機会を得た折に、心に滲みる言葉を頂いた。「挑戦には失敗が付きものだ、また再起すれば良い」

私はどん底から這い上がり、グローバルモビリティサービスを設立していた。世界に17億人もいると言われる金融サービスにアク

セスできない貧困・低所得層の方々に対して、デジタルの力を活用して金融包摂を実現し、多くの人を幸せにするフィンテックベンチャーだ。かつて心血を注いだ電気自動車ベンチャーの事業譲渡では真面目にがんばっても報われない無念さに打ちひしがれた。そこから一転、フィンテックベンチャーを立ち上げ、真面目に働く人が正しく評価される仕組みを創造し、「社会を変える」ために邁進してきた経緯を喜々としてご報告し、その後、話は日本の未来に及んで語り合った。いつの間にか30分だったはずの予定は2時間を超えていた。

常に未来のエネルギー社会を見据え、既存事業からの撤退も辞さず、あるべき社会へと導かんとする渡さんの先見性は、いつも大胆かつ緻密で揺らぐことがない。そんな渡さんに私は憧れ、その言葉には真似ようのない重みがあった。

「私達の先輩達の時代から、石炭を捨てないままに当時の勢いを維持している会社はない。そしてこれから、石油依存から新エネルギーに転換する時代を迎えるが、俺には石油を捨てる覚悟がある。『中島君、新しい時代を創る覚悟はあるか』」

目を合わせたまま私が無言で頷くと、渡さんは微笑んでくれた。